

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Prenatal negative life events and childhood allergies: the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

妊婦のストレスイベントへのばく露と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患との関連: エコチル調査より

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 甲信ユニットセンター(山梨大学)

発表雑誌名: International Archives of Allergy and Immunology

年: 2022 DOI: 10.1159/000524854

筆頭著者名: 小島 令嗣

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

妊婦のストレスイベント(家族の死亡、経済的問題、夫婦間の問題など)へのばく露と子どものアレルギー疾患の関連については、必ずしも研究結果が一致していない。本研究では、妊婦のストレスイベントへのばく露と生まれた子どもの3歳時のアレルギー疾患発症との関連を明らかにすることを目的とした。

方法:

エコチル調査に参加した81,337名の妊婦のデータおよび生まれた子どもの3歳時のデータを解析した。妊婦のストレスイベントの回数と、生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患(気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー)の関連を多変量ロジスティック解析で解析した。

結果:

ストレスイベントのなかった妊婦と比べて、ストレスイベントがあった妊婦から生まれた子どもは、3歳時に気管支喘息とアトピー性皮膚炎、食物アレルギーになる割合が高かった。また、妊婦のストレスイベントの数が多いほど、生まれた子どもが3歳時に気管支喘息とアトピー性皮膚炎を発症する可能性が高まる傾向にあった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の結果から、妊婦のストレスイベントが生まれた子どもの3歳時の気管支喘息とアトピー性皮膚炎、食物アレルギーのリスクとなる可能性が示唆された。ただし妊婦のストレスイベントについては自記式の質問票で把握しており、またストレスイベントの数ごとに解析を行ったものの、それぞれのストレスイベントの重みについては検討されていない。また生まれた子どもが3歳の時に医師に診断されたアレルギー疾患を質問票で確認したが、保護者による申告であるため、正確性が担保されていないことも本研究の限界である。

結論:

妊婦のストレスイベントは、生まれた子ども3歳時の気管支喘息とアトピー性皮膚炎、食物アレルギーの発症につながる可能性があることが示唆された。